



概説およびインストール

バージョン 8.2.1



概説およびインストール

お願い

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、41 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

- | 本書は、DB2 Universal Database Data Warehouse Edition バージョン 8.2.1 の製品、および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

本書には、IBM の専有情報が含まれています。その情報は、使用許諾条件に基づき提供され、著作権により保護されています。本書に記載される情報には、いかなる製品の保証も含まれていません。また、本書で提供されるいかなる記述も、製品保証として解釈すべきではありません。

資料を注文する場合は、IBM 担当者または最寄りの IBM 営業所にご連絡ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

<http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原 典： GC18-7459-02
IBM DB2 Universal Database Data Warehouse Edition
Getting Started
Version 8.2.1

発 行： 日本アイ・ピー・エム株式会社

担 当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2005.2

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W7、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W7、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 2003, 2005. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2004

目次

本書について	v	DB2 Data Warehouse Enterprise Edition のデータ・フローのシナリオ	17
本書の対象読者	v	第 5 章 DB2 Data Warehouse Edition	
本書の規則	v	のインストール	21
本書で使用する用語	vi	DB2 Data Warehouse Edition のアップグレード	21
オンライン情報	vi	DWE 8.2 からのアップグレード	21
第 1 章 クイック・スタート	1	DWE 8.2 より前のリリースからのアップグレード	21
ハードウェア要件とソフトウェア要件の概要	1	DWE のインストールの前に	22
インストール開始	2	インストールの順序	24
第 2 章 DWE 製品コンポーネント	5	DWE のインストールで使用可能なショートカット・キー	25
IBM DB2 Universal Database	6	Windows でのインストールの開始	26
DB2 UDB Enterprise Server Edition	6	UNIX および Linux でのインストールの開始	28
DB2 UDB Workgroup Server Unlimited Edition	6	DB2 Alphablox または DB2 Office Connect のインストール	31
DB2 Warehouse Manager (ETL コンポーネント)	7	第 6 章 DB2 Data Warehouse Edition	
ウェアハウス・トランスフォーマー	7	のアンインストール	33
ウェアハウス ETL エージェント	7	付録 A. エラー・メッセージ	35
DB2 Information Integrator	7	ログ・ファイルのロケーション	37
リレーショナル・ラッパー	7	付録 B. トラブルシューティング	39
DB2 Cube Views	8	特記事項	41
DB2 Query Patroller	8	商標	43
DB2 Intelligent Miner	9	索引	45
DB2 Intelligent Miner Modeling	9	IBM と連絡をとる	47
DB2 Intelligent Miner Scoring	9	製品情報	47
DB2 Intelligent Miner Visualization	10		
DB2 Alphablox	10		
DB2 Office Connect	11		
第 3 章 特定のハードウェア要件とソフトウェア要件	13		
サポートされる言語	14		
第 4 章 ビジネス・インテリジェンスのデータ・フローのシナリオ	17		

本書について

IBM® DB2 Universal Database™ Data Warehouse Edition (DWE) は、DB2 Universal Database (DB2 UDB) の長所と、IBM 社の強力なビジネス・インテリジェンス・インフラストラクチャーを結合した製品スイートです。DWE は、企業やそのパートナーが次世代の分析型ソリューションを配備または構築するために必要とするツールを備えた、総合的なビジネス・インテリジェンス・プラットフォームを提供します。DWE を使用することにより、拡張が非常に容易なリレーショナル・データベース、データ・アクセス機能、ビジネス・インテリジェンス分析、およびフロントエンド分析ツールを含む、完全なデータウェアハウジング・ソリューションを構築できます。

本書は、以下の 3 つのエディションの製品コンポーネントのインストールを計画する際に役立ちます。

- DB2 Data Warehouse Base Edition
- DB2 Data Warehouse Standard Edition
- DB2 Data Warehouse Enterprise Edition

以降、これらのエディションを DWE と記載します。各エディションの製品コンポーネントのリストについては、5 ページの『第 2 章 DWE 製品コンポーネント』を参照してください。

DWE をインストールする前に本書をお読みください。その後、インストールする各製品コンポーネントの前提条件であるインストール要件をお読みください。DWE の製品コンポーネントには、それぞれ独自の資料が付属されています。

注: すべてのドキュメンテーション CD は、ラベル *Documentation* がついた一連の CD に含まれます。

本書の対象読者

本書は、DB2 Data Warehouse Edition をインストールして構成するシステム管理者を対象にしています。インストールする個々の製品コンポーネントに精通している必要があります。また、データベース、クライアントとサーバーのアーキテクチャー、接続、およびネットワークングについて理解している必要があります。

本書の規則

本書では、以下のような強調表示規則を使用します。

太字体は、コマンドの他、フィールド名、ボタン名、およびメニュー選択項目などのグラフィカル・ユーザー・インターフェース・コントロールに使用します。

モノスペース (monospace) は、例、入力テキスト、および画面上のテキストに使用します。

イタリック は、新規用語、資料タイトル、CD ラベル、または実際の値で置き換える変数情報を示します。

本書で使用する用語

本書では、以下の用語規則を使用します。

UNIX[®] は、AIX および Solaris オペレーティング・システムを総称します。

Windows[®] は、Microsoft[®] Windows 2000、Windows Server 2003、および Windows XP Professional オペレーティング・システムを総称します。

オンライン情報

以下の Web サイトから、フィックスパックのダウンロードや詳細情報の参照が可能です。

<http://www.ibm.com/software/>

IBM ソフトウェア製品に関する概要と、特定の情報へのリンクがあります。

<http://www.ibm.com/software/data/db2/udb/dwe>

DWE に関する情報へのリンクがあります。

<http://www.ibm.com/software/data/db2/udb/support.html>

DB2 フィックスパック、ヒント、FAQ、白書、および Redbooks[™] へのリンクがあります。

<http://www.ibm.com/software/data/db2/datawarehouse/>

DB2 Warehouse Manager に関する情報へのリンクがあります。

<http://www.ibm.com/software/data/integration/db2ii/>

DB2 Information Integrator に関する情報へのリンクがあります。

<http://www.ibm.com/software/data/db2/db2md/>

DB2 Cube Views に関する情報へのリンクがあります。

<http://www.ibm.com/software/data/db2/querypatroller/>

DB2 Query Patroller に関する情報を参照できます。

<http://www.ibm.com/software/data/iminer/>

DB2 Intelligent Miner に関する情報を参照できます。

<http://www.ibm.com/software/data/db2/alphablox/>

DB2[®] Alphablox に関する情報を参照できます。

<http://www.ibm.com/software/data/db2/officeconnect/>

DB2 Office Connect に関する情報を参照できます。

第 1 章 クイック・スタート

このセクションでは、DB2 Data Warehouse Edition (DWE) のインストールについて概説します。以下を記載します。

- DWE のインストールに必要なハードウェアおよびソフトウェア要件の概要。
- DWE のインストール方法の概要。

ハードウェアおよびソフトウェア要件の詳細については、13 ページの『第 3 章 特定のハードウェア要件とソフトウェア要件』を参照してください。DWE のインストール方法の詳細については、21 ページの『第 5 章 DB2 Data Warehouse Edition のインストール』を参照してください。

ハードウェア要件とソフトウェア要件の概要

DWE のインストールに必要なハードウェアとソフトウェアの最小要件について以下に説明します。

DWE は以下のオペレーティング・システムでサポートされています。

- サーバー・プラットフォーム
 - AIX[®] 5 (32 ビットおよび 64 ビット)
 - Red Hat Enterprise Linux[™] (v.3 Standard for x86) (32 ビット) コンプリート製品ライン (Red Hat Enterprise Linux AS、Red Hat Enterprise Linux ES、および Red Hat EnterpriseLinux WS を含む)
 - SUSE LINUX Enterprise Server 8 (SLES 8)
 - Solaris バージョン 8 および 9 (32 ビット)
 - Windows 2000 Server、Advanced Server、および Datacenter Server (32 ビット)
 - Windows Server 2003 Standard Edition、Enterprise Edition、および Datacenter Edition (32 ビット)
- クライアント・プラットフォーム
 - Windows XP Professional Edition (32 ビット)
 - Windows 2000 Professional Edition (32 ビット)

表 1. DWE 製品コンポーネントのオペレーティング・システム要件

製品コンポーネント	AIX 5 32 ビットおよび 64 ビット	Linux for Intel [™] 32 ビット	Solaris バージョン 8 および 9 32 ビット	Windows 2000 32 ビット	Windows XP および Windows Server 2003 32 ビット
DB2 UDB ESE	X	X	X	X	X
DB2 UDB WSUE	X	X	X	X	X
DB2 Warehouse Manager ¹	X			X	X

表 1. DWE 製品コンポーネントのオペレーティング・システム要件 (続き)

製品コンポーネント	AIX 5 32 ビットおよび 64 ビット	Linux for Intel™ 32 ビット	Solaris バージョン 8 および 9 32 ビット	Windows 2000 32 ビット	Windows XP および Windows Server 2003 32 ビット
DB2 Information Integrator	X	X	X	X	X
DB2 Cube Views	X	X	X	X	X
DB2 Query Patroller	X	X	X	X	X
DB2 Intelligent Miner ²	X	X	X	X	X
DB2 Alphablox ³	X	X	X	X	X
DB2 Office Connect				X	X

注:

- DB2 Warehouse Manager のオペレーティング・システム要件は、ウェアハウス・エージェントに適用されます。64 ビット環境では、DB2 Warehouse Manager は 32 ビット・エミュレーション・モードのみで稼働します。
- x86 および IA64 プロセッサ上の SUSE Linux Enterprise Server オペレーティング・システムの場合、DB2 Intelligent Miner V8.2 は SLES 8 ではなく SLES 9 のみをサポートします。詳細については、www.ibm.com/software/data/iminer/sysreqs.html のシステム要件に関するページを参照してください。
- DB2 Alphablox は、Red Hat Enterprise Linux V3 をサポートしますが、SLES 8 はサポートしません。また、DB2 Alphablox は Windows 2000 32 ビットおよび Windows 2003 32 ビットをサポートしますが、Windows XP はサポートしません。

インストール開始

DWE をインストールするには、以下を実行してください。

- 実行中のプログラムをすべて閉じます。
- DB2 UDB Data Warehouse Edition - 統合インストール CD を CD ドライブに挿入します。

Linux の場合: DB2 UDB Data Warehouse Edition - 統合インストール CD を CD ドライブに挿入する前に一時ディレクトリを作成して、ご使用のオペレーティング・システムが CD ドライブをアンマウントできるようにしてください。Linux でインストール・プロセスを開始するには、以下のステップを実行します。

- 端末ウィンドウを開きます。
- 次のコマンドを実行し、一時ディレクトリを作成します。

```
mkdir /dwe
```

- c. *DB2 UDB Data Warehouse Edition* - 統合インストール CD を CD ドライブに挿入します。
- d. 以下のコマンドを、この順序で実行します。

```
umount /mnt/cdrom  
mount -t iso9660 /dev/cdrom /dwe  
/dwe/setup.sh
```

- e. DWE インストーラーにより、インストール・プロセスの続行のために次の CD を挿入するよう要求された場合は、以下のコマンドを実行して CD ドライブをアンマウントします。

```
umount /dwe
```

CD ドライブをマウントできない場合は、DWE ウィンドウの 1 つが閉じてからこのコマンドを再実行してください。

- f. 次の CD を挿入し、「OK」をクリックします。
 - g. 以下のインストール手順を続行します。
3. CD を挿入したドライブに移動し、ご使用のオペレーティング・システム用のインストール・セットアップ・ファイルを指定します。

- Windows の場合: **setup.bat** をダブルクリックし、ランチパッド・ウィンドウを開きます。
- UNIX の場合: 以下をコマンド・プロンプトで入力し、DWE ランチパッドを開きます。

```
/cd-location/setup.sh
```

cd-location は CD が挿入されたディレクトリー名です。

インストール・プロセス中に CD を変更できるようにするため、**setup.sh** コマンドは CD ディレクトリー以外で実行してください。CD ディレクトリー内で **setup.sh** コマンドを実行すると、DWE プログラムで CD ドライブをアンマウントできなくなります。

ランチパッド・ウィンドウが開きます。

4. 「インストール」をクリックします。
- Windows の場合: ご使用のシステムで Windows 自動実行機能が有効になっている場合、「自動実行を使用しない」ウィンドウが表示されます。DWE インストール・プログラムを作動させるには、この機能をオフにする必要があります。「このボックスにチェックマークを付けて自動実行をオフにする」チェック・ボックスを選択します。「次へ」をクリックし、「完了」をクリックします。システムがシャットダウンし、再始動します。ステップ 3 および 4 を繰り返します。自動実行機能は DWE インストールの最後に有効に戻すことができます。

「ソフトウェアのご使用条件」ウィンドウが開きます。

5. ソフトウェアのご使用条件に同意後、「次へ」をクリックします。
6. 以降表示されるウィンドウで、インストールする製品コンポーネント、インストール・メディアのロケーション、および製品コンポーネントのインストール先を指定します。

| 7. オプション: DB2 Alphablox は統合インストール・プログラムではインストール
| できません。DB2 Alphablox をインストールする場合は、DWE のインストール
| を完了してからインストールする必要があります。

| IBM では、DB2 Office Connect よりも DB2 Alphablox の使用を推奨していますが、DB2 Office Connect をインストールする場合は、統合インストール・プログラムに含まれていない点に注意してください。DWE のインストールを完了してからインストールする必要があります。

第 2 章 DWE 製品コンポーネント

DB2 Data Warehouse Edition (DWE) は、DB2 Universal Database (DB2 UDB) の長所と、IBM 社の強力なビジネス・インテリジェンス・インフラストラクチャーを結合した製品スイートです。DB2 Data Warehouse Edition は、企業やそのパートナーが次世代の分析型ソリューションを配備または構築するために必要とするツールを備えた、総合的なビジネス・インテリジェンス・プラットフォームを提供します。DWE を使用することにより、拡張が非常に容易なりレシヨナル・データベース、データ・アクセス機能、ビジネス・インテリジェンス分析、およびフロントエンド分析ツールを含む、完全なデータウェアハウジング・ソリューションを構築できます。

DB2 Data Warehouse Enterprise Edition には以下の製品が含まれています。

- DB2 Universal Database Enterprise Server Edition バージョン 8.2 (DB2 Database Partitioning Feature バージョン 8.2 を含む)
- DB2 Warehouse Manager Standard Edition バージョン 8.2
- DB2 Information Integrator Standard Edition バージョン 8.2 (DB2 Warehouse Manager のみで使用可能な限定ライセンス)
- DB2 Cube Views バージョン 8.2
- DB2 Query Patroller バージョン 8.2
- DB2 Intelligent Miner バージョン 8.2
- DB2 Alphablox バージョン 8.2.1 (DB2 Data Warehouse Edition データベースに格納されているか、このデータベースを介してアクセスされるデータのみに対して使用可能な限定ライセンス)
- DB2 Office Connect Enterprise Web Edition バージョン 4.0 TC2

DB2 Data Warehouse Standard Edition には以下の製品が含まれています。

- DB2 Universal Database Workgroup Server Unlimited Edition バージョン 8.2
- DB2 Cube Views バージョン 8.2
- DB2 Intelligent Miner バージョン 8.2
- DB2 Alphablox バージョン 8.2.1 (DB2 Data Warehouse Edition データベースに格納されているか、このデータベースを介してアクセスされるデータのみに対して使用可能な限定ライセンス)
- DB2 Office Connect Professional Web Edition バージョン 4.0 TC2

DB2 Data Warehouse Standard Edition には DB2 Information Integrator Standard Edition、DB2 Query Patroller、DB2 Warehouse Manager は含まれません。

DB2 Data Warehouse Base Edition には以下の製品が含まれています。

- DB2 Universal Database Enterprise Server Edition バージョン 8.2 (DB2 Database Partitioning Feature バージョン 8.2 を購入可能)
- DB2 Cube Views バージョン 8.2

DWE の Enterprise Edition および Standard Edition に含まれる製品の概要について、以下に説明します。

IBM DB2 Universal Database

DB2 UDB Enterprise Server Edition は DWE Base Edition および DWE Enterprise Edition に含まれており、DB2 UDB Workgroup Server Unlimited Edition は DWE Standard Edition に含まれています。

DB2 UDB Enterprise Server Edition

DB2 UDB Enterprise Server Edition バージョン 8.2 (DB2 UDB ESE) は、Database Partitioning Feature を搭載した、拡張が非常に容易なマルチユーザー・リレーショナル・データベース管理システムです。これを使用して、データウェアハウジング、OLAP、オンライン・トランザクション処理 (OLTP)、およびデータ・マイニングを管理できます。また、パーティション・データベース環境を作成および管理できます。パーティション・データベース・システムにより、大量のデータを管理する際にリニアに近いスケーラビリティが得られ、パフォーマンスの向上や高可用性などの利点もあります。DB2 UDB ESE にはその他にも以下の機能が含まれています。

- DB2 Connect™ 機能。これは、DB2 UDB for iSeries™ や DB2 UDB for z/OS® などの、ミッドレンジやメインフレームのデータベース・システムに格納されているデータにアクセスする機能です。DB2 UDB ESE には、ローカルとリモートの DB2 UDB クライアントの両方のサポートが備えられています。
- サテライト管理機能。この機能を使用すると、DB2 UDB ESE はサテライトとして構成された DB2 UDB データベース・サーバーをリモート管理できます。

DB2 UDB Workgroup Server Unlimited Edition

DB2 UDB Workgroup Server Unlimited Edition バージョン 8.2 (DB2 UDB WSUE) は、全機能を備え、Web を使用可能な、クライアントとサーバーから成るリレーショナル・データベース管理システムです。広域ネットワーク (WAN) またはローカル・エリア・ネットワーク (LAN) に DB2 UDB WSUE を配備できます。この製品にはデータウェアハウジング機能が含まれており、サテライト制御データベースからリモート管理できます。

DB2 UDB WSUE には、基本的に中小規模のビジネスや部門のコンピューティングを想定した、基本レベルのサーバーが備えられています。この製品は DB2 UDB ESE と機能的にはほぼ同等ですが、統合 zSeries® サーバー接続 (DB2 Connect コンポーネントを介して行う) に対応していない点と、拡張性に限界がある (例えば、DB2 UDB WSUE は 64 ビット・コンピューティングや DB2 Data Links File Manager をサポートしていない) 点が異なります。また、DB2 UDB WSUE には Database Partitioning Feature がありません。

DB2 Warehouse Manager (ETL コンポーネント)

DB2 Warehouse Manager (ETL コンポーネント) には、DB2 データウェアハウス・センター (DB2 に含まれる) に備えられているウェアハウジング抽出、トランスフォーム、およびロード (ETL) 機能を拡張するコンポーネントが含まれています。

DB2 Warehouse Manager は DB2 Data Warehouse Enterprise Edition に組み込まれており、以下のデータウェアハウス ETL ツールが含まれています。

- ウェアハウス・トランスフォーマー
- ウェアハウス ETL エージェント

ウェアハウス・トランスフォーマー

ウェアハウス・トランスフォーマーは、ウェアハウスのステップでデータをトランスフォームする際に使用できるストアード・プロシージャとユーザー定義関数です。DB2 データウェアハウス・センターでは、ウェアハウスを作成して保守するステップを使用します。このステップにより、データを重要なビジネス情報にトランスフォームする方法が制御されます。データのクリーン、反転、ピボットを行うステップ、主キーと期間表を生成するステップ、およびさまざまな統計を計算するステップで、ウェアハウス・トランスフォーマーを使用できます。

ウェアハウス ETL エージェント

ウェアハウス ETL エージェントは、データをソース・データベースからターゲット・ウェアハウスに転送して、データ・ソースとターゲット・ウェアハウスの間のデータ・フローを管理します。これらのエージェント (AIX、iSeries、Linux、Solaris、および Windows 用) は、Open Database Connectivity (ODBC) ドライバーか DB2 CLI (コール・レベル・インターフェース) を使用して、さまざまなデータベースと通信します。DB2 Information Integrator リレーショナル・ラッパーにより、異機種のリレーショナル・データベース・ソースへの接続が最適化されます。リモート・エージェントは、サーバーがデータ・ソースまたはターゲット・ウェアハウスをはじめ、スタンドアロン ETL ハブにおいても ETL 処理を最適かつ柔軟に分散できるようにします。

DB2 Information Integrator

DB2 Data Warehouse Enterprise Edition には、DB2 Warehouse Manager ETL ツールを備えた異機種混合の RDBMS ソースにアクセスする目的で DB2 Information Integrator リレーショナル・ラッパーを使用可能にする、DB2 Information Integrator Standard Edition の限定ライセンスが含まれています。これらの ETL ソースには Oracle、Microsoft SQL Server、Teradata、および Sybase が含まれます。

リレーショナル・ラッパー

DB2 Information Integrator Standard Edition には、リレーショナル・ラッパーが含まれます。ラッパーは、フェデレーテッド・サーバーがデータ・ソースと対話するためのメカニズムです。フェデレーテッド・サーバーはラッパー・モジュールと呼ばれるライブラリーに格納されたルーチンを使用し、ラッパーをインプリメントします。これらのルーチンにより、フェデレーテッド・サーバーはデータ・ソースへの

接続やデータ・ソースからのデータ抽出などの操作を繰り返し実行できます。リレーショナル・ラッパーは、DB2 UDB Enterprise Server Edition と併用する DB2 Information Integrator のコンポーネントです。

DB2 Information Integrator バージョン 8.2 では、Microsoft SQL Server、Oracle、Sybase、および Teradata データ・ソースに格納されているデータへのアクセスの拡張に、リレーショナル・ラッパーが必要です。IBM データベース (DB2 UDB および Informix[®]) に格納されているデータへのアクセス権は、DB2 UDB for Linux、DB2 UDB for UNIX、および DB2 UDB for Windows に組み込まれています。

DB2 Cube Views

DB2 Data Warehouse Edition には、ビジネス・パートナーのビジネス・インテリジェンス製品のユーザビリティとパフォーマンスの向上を目的として設計された機能が実装されています。データウェアハウス管理者は、DB2 Cube Views Optimization Advisor の推奨に基づいて DB2 UDB 中に最適な構造を構築できます。これにより、パートナー・ツールによって生成される OLAP 照会のパフォーマンスを向上させることができます。これらのビジネス分析ツールを DB2 UDB 管理ツールと併用すると、照会結果の一貫性が高くなります。設計者は、DB2 UDB からキューブ・ビュー・メタデータとマッピングを簡単にインポートできるため、同一の企業内で使用されている他のパートナー・ツールで同じメタデータを新たに定義する必要はありません。

企業内全体のビジネス・インテリジェンス・ユーザーは、DB2 Cube Views バージョン 8.2 を使用すると、複数のツール間で共有する OLAP モデルを短時間で定義できるという利点があります。新しいメタデータ・オブジェクトとツールを使用して、メタデータを DB2 UDB カタログにインポートした後でキューブ構造を定義できます。他のビジネス・インテリジェンス・ツールでもこのメタデータを使用できます。共有される共通メタデータには集約式と集約計算が含まれるため、企業内全体で分析結果の一貫性が高くなります。

DB2 Query Patroller

DB2 Query Patroller は DB2 オプティマイザーの予測照会コスト計算を利用して、ウェアハウス・ワークロードの管理を支援します。DB2 Query Patroller は射影されたリソース・コストを、事前定義されたユーザー・プロファイル、システムしきい値、およびキュー基準と突き合わせ、照会をそれぞれ動的にルーティングします。DB2 Query Patroller を使用して、DB2 UDB データベースに対する照会のフローを動的に制御できます。以下の操作を実行できます。

- さまざまなサイズのクラスごとに別個の照会クラスを定義し、照会間でのシステム・リソースの共有性を向上させ、大規模な照会の実行時に小規模な照会が停止しないようにする。
- 特定のユーザーがサブミットする照会の優先順位を高くして、これらの照会の実行時期を早くする。
- 大規模な照会を自動的に保留して、取り消したり、オフピーク時に実行されるようスケジュールしたりできるようにする。
- 誤った照会を追跡して取り消す。

DB2 Query Patroller を使用することで、データベース照会の作業負荷を調整して小規模な照会や優先順位の高い照会が即時に実行されるようになり、システム・リソースの効率利用が可能になります。さらに、完了した照会に関する情報を収集して分析し、照会間の傾向、ヘビー・ユーザー、および頻繁に使用される表や索引を判別できます。

DB2 Intelligent Miner

DB2 Intelligent Miner™ バージョン 8.2 は、以下の製品のセットです。

- Intelligent Miner Modeling
- Intelligent Miner Scoring
- Intelligent Miner Visualization

これらの製品により、Business Intelligence (BI)、eCommerce、または従来の Online Transaction Processing (OLTP) アプリケーション・プログラムに組み込まれる Intelligent Miner 分析機能が即時に使用可能になります。

Intelligent Miner ライブラリーは <http://www.ibm.com/software/data/iminer/library.html> から参照できます。

Intelligent Miner 製品のセットに加え、Intelligent Miner の以下の機能を <http://www.alphaworks.ibm.com> の AlphaWorks から無料でダウンロードできます。

- DB2 Intelligent Miner 用 WebSphere® Studio Plug-in
- Intelligent Miner Add-in for Microsoft Excel

DB2 Intelligent Miner Modeling

Intelligent Miner Modeling は、DB2 エクステンダーなどの Intelligent Miner Modeling テクノロジーを提供します。これにより、SQL アプリケーション・プログラム (SQL API) がアソシエーション・ディスカバリー、クラスタリング、区分、およびトランスフォーム回帰操作を呼び出し、DB2 Universal Database バージョン 8.2 またはバージョン 8 SQL がアクセスするデータに基づいて分析モデルを構築できるようになります。SQL API を使用することで、DB2 表に格納された、アソシエーション、ディストリビューション・ベース・クラスタリング、ツリー区分、およびトランスフォーム回帰 PMML モデルを作成できます。これらは Intelligent Miner Visualization により視覚化でき、Intelligent Miner Scoring によりスコアできます。

DB2 Intelligent Miner Scoring

Intelligent Miner Scoring は、DB2 エクステンダーなどのスコア・テクノロジーを提供します。この機能により、アプリケーション・プログラムは Predictive Model Markup Language (PMML) モデルを大規模データベース、データベースのサブセット、または単一行やケースに適用できます。アプリケーション・プログラムは、ユーザー定義関数 (UDF) とユーザー定義メソッド (UDM) から構成される SQL API を使用して、スコア操作を実行します。PMML モデルは、Intelligent Miner 製品のいずれか、または PMML モデルをサポートするその他のアプリケーションやツールを使用して作成されている場合があります。

注: Intelligent Miner Scoring の SQL API に適用されるマイニング・モデルは、データベース表に含まれている必要があります。

Intelligent Miner Scoring には Intelligent Miner Scoring Java Bean が含まれています。これにより、PMML モデルが適用された Java™ アプリケーションの単一データ・レコードのスコアが可能になります。この機能は、カスタマー・リレーションシップ・マネージメント (CRM) システム内のリアルタイム・スコアなど、e-business アプリケーション内のスコアの統合に使用できます。

DB2 Intelligent Miner Visualization

Intelligent Miner Visualization は、分析のためにデータのモデル化結果を表示する以下の Java ビジュアライザーを提供します。

- Associations Visualizer
- Classification Visualizer
- Clustering Visualizer
- Regression Visualizer

Intelligent Miner Visualizer を使用して PMML 対応マイニング・モデルを視覚化できます。アプリケーションはこれらのビジュアライザーを呼び出してモデルの結果を表示できる他、ビジュアライザーをアプレットとして、既に普及している Web ブラウザー中に配備できます。モデルは、Intelligent Miner Modeling、または PMML モデルを使用したインターオペラビリティをサポートするその他のアプリケーションやツールを使用して開発されている場合があります。

Intelligent Miner Scoring では、Intelligent Miner Visualization をスタンドアロン・モードで、あるいは Web アプレットとして使用することで、データベースからマイニング・モデルを直接視覚化できます。

PMML 標準では、スコアのインターオペラビリティに焦点が当てられています。PMML モデルに Intelligent Miner Modeling で作成される分散統計や品質情報などの Intelligent Miner Visualization 拡張機能が含まれる場合、Intelligent Miner Visualization を最適に利用できます。

DB2 Alphablox

DB2 Alphablox は、企業のインフラストラクチャーに適合し、企業のファイアウォール内外の幅広いユーザーに対応できるカスタム Web ベース・アプリケーションを迅速に作成する機能を提供します。DB2 Alphablox で作成したアプリケーションは標準的な Web ブラウザーで実行できるため、Web ブラウザーでリアルタイムかつ高度にカスタマイズ可能な多次元分析を実行できます。DB2 Alphablox は、IBM WebSphere Application Server などのアプリケーション・サーバーを含む、企業の幅広いインフラストラクチャー・コンポーネントと統合できます。

DB2 Alphablox では、以下を実行できます。

- DB2 Universal Database、DB2 Cube Views、および DB2 Information Integrator のデータに対してアクセスおよび対話できます。
- リレーショナル・データベースを基にした構造化されたレポートを作成できます。
- データを表示するために、さまざまな種類の中からグラフを選択できます。
- フィルターやドリルダウン機能を使用して、リレーショナル・データのビューをユーザーの要求どおりに対話式に表示できます。

- エンド・ユーザーを、認識しやすいユーザー・インターフェースにアクセス可能にすることで、データの分析が簡単かつ効果的になります。
- 単一のアプリケーションで複数のデータ・ソースにアクセス可能です。

DB2 Alphablox は、開発者がカスタム・アプリケーションを作成できるよう、多様なアプリケーション・プログラミング・インターフェース (API) を提供しています。DB2 Alphablox API は Java プログラム言語で記述されており、アプリケーション開発者は Java (サーバーで実行される) または JavaScript™ (ブラウザで解釈される) を使用してこれらにアクセスできます。

注: DWE に付属する DB2 Alphablox のバージョンは、Alphablox リレーショナル・キューブをマルチディメンション・データ・ソースとして使用する場合に限り使用できます。リレーショナル・キューブを使用する場合、アプリケーションがデータベースに書き戻すことはできません。

DB2 Alphablox の一部の機能は DB2 Office Connect と重複しています。これらのコンポーネントのいずれかまたは両方をインストールできますが、IBM では DWE のレポートおよび分析のフロントエンドとして、DB2 Alphablox の使用をお勧めします。

DB2 Office Connect

DB2 Office Connect は、セキュリティ、管理、およびデータベース接続をグローバルに制御する、管理されたレポート環境を提供します。DB2 Office Connect は、単純な Excel ベースのレポート・オーサリングおよび配布ツールとして機能します。これを使用することで、ユーザーは共通リポジトリで他のユーザーと共有できる、データベース照会およびフォーマットされたスプレッドシートを作成できます。

DB2 Office Connect には以下の機能も備えられています。

- データウェアハウス内のデータの変更に応じて変更されるオンデマンド・レポートの作成
- データウェアハウスのカスタマイズされた照会の実行
- Excel ユーザーが分析結果をデータウェアハウスに書き戻せる機能に基づく、企業内全体でのデータ分析の共有

以下の 2 つのエディションの DB2 Office Connect を使用できます。

- DB2 Office Connect Enterprise Web Edition。DB2 Data Warehouse Enterprise Edition に組み込まれています。
- DB2 Office Connect Professional Web Edition。DB2 Data Warehouse Standard Edition に組み込まれています。

いずれのエディションの DB2 Office Connect も機能的には同等です。ただし、ライセンスは別個です。

第 3 章 特定のハードウェア要件とソフトウェア要件

このセクションでは、DB2 Data Warehouse Edition の特定のシステム要件について説明します。

ご使用のシステムが DB2 UDB Enterprise Server Edition バージョン 8.2 のインストール要件を満たしている場合、そのシステムは DB2 Data Warehouse Enterprise Edition のすべての製品コンポーネントをインストールする場合のシステム要件を満たしていると見なすことができます。同様に、ご使用のシステムが DB2 UDB Workgroup Server Unlimited Edition バージョン 8.2 のインストール要件を満たしている場合、そのシステムは DB2 Data Warehouse Standard Edition 内のすべての製品コンポーネントをインストールする場合のシステム要件を満たしていると見なすことができます。

DB2 Data Warehouse Enterprise Edition および DB2 Data Warehouse Standard Edition の製品コンポーネントのソフトウェア要件とハードウェア要件については、各製品コンポーネントの資料を参照してください。

表 2 に DB2 Data Warehouse Edition のシステム要件を示します。

表 2. DB2 Data Warehouse Edition バージョン 8.2 のシステム要件

オペレーティング・システム	最小要件	ビット数	ハードウェア
AIX バージョン 5.1	保守レベル 6	32、64	以下のいずれか • IBM RISC System/6000® • eServer™ pSeries®
AIX バージョン 5.2	保守レベル 3	32、64	以下のいずれか • IBM RISC System/6000 • eServer pSeries
AIX バージョン 5.3	任意のレベル	32、64	以下のいずれか • IBM RISC System/6000 • eServer pSeries
Red Hat Enterprise Linux (v.3 Standard for x86)	アップデート 2	32	Pentium® または Pentium 対応 CPU が必要。
SUSE LINUX Enterprise Server 8 (SLES 8)	Service Pack 3	32	Pentium または Pentium 対応 CPU が必要。

表 2. DB2 Data Warehouse Edition バージョン 8.2 のシステム要件 (続き)

オペレーティング・システム	最小要件	ビット数	ハードウェア
Solaris 8 オペレーティング環境	1. http://sunsolve.sun.com の「推奨 & セキュリティパッチ」 2. パッチ 108921-12、108940-24、108434-03、108528-12	32	Solaris UltraSPARC ベース・コンピューター
Solaris 9 オペレーティング・システム		32	Solaris UltraSPARC ベース・コンピューター
Windows 2000 Professional Edition	Service Pack 4	32	Pentium または Pentium 対応 CPU が必要。
Windows XP Professional Edition	Service Pack 1	32	Pentium または Pentium 対応 CPU が必要。
Windows 2000 Server Edition、Advanced Server Edition、および Datacenter Edition	Service Pack 4	32	Pentium または Pentium 対応 CPU が必要。
Windows Server 2003 Standard Edition、Enterprise Edition、および Datacenter Edition		32	Pentium または Pentium 対応 CPU が必要。

サポートされる言語

DWE は複数の言語で提供されており、製品コンポーネントにより言語サポートは多少異なります。言語サポートに関する特定の情報については、DWE の各製品コンポーネントの資料を参照してください。DWE の製品コンポーネントの多くは、以下の言語に翻訳されています。

- 英語
- フランス語
- ドイツ語
- イタリア語
- ブラジル・ポルトガル語
- スペイン語
- 中国語 (簡体字)
- 中国語 (繁体字)
- 日本語
- 韓国語

注:

1. DB2 Query Patroller は、イタリア語、ブラジル・ポルトガル語、スペイン語、中国語 (簡体字)、および中国語 (繁体字) には翻訳されていません。

1

2. DB2 Alphablox はイタリア語には翻訳されていません。

第 4 章 ビジネス・インテリジェンスのデータ・フローのシナリオ

DB2 Data Warehouse Edition は、企業内で収集して分析したデータを考察するのに役立つツールのスイートです。DB2 UDB により、企業データの基礎を構築できます。DB2 Warehouse Manager を使用すると、データを収集してトランスフォームし、IBM DB2 Intelligent Miner や DB2 Cube Views などの他のビジネス・インテリジェンス・ツールによる操作や分析を実行可能にすることができます。

DB2 Data Warehouse Enterprise Edition のデータ・フローのシナリオ

表 3 のシナリオでは、DB2 Data Warehouse Enterprise Edition の製品コンポーネント間の仮想データ・フローが説明されています。このシナリオは、DB2 データベースまたは DB2 以外のデータベース中のソース・データからスタートします。企業内のデータを編成および分析し、効果的な業務上の決断を可能にすることが目的となります。

表 3. DB2 Data Warehouse Enterprise Edition を使用したデータ分析

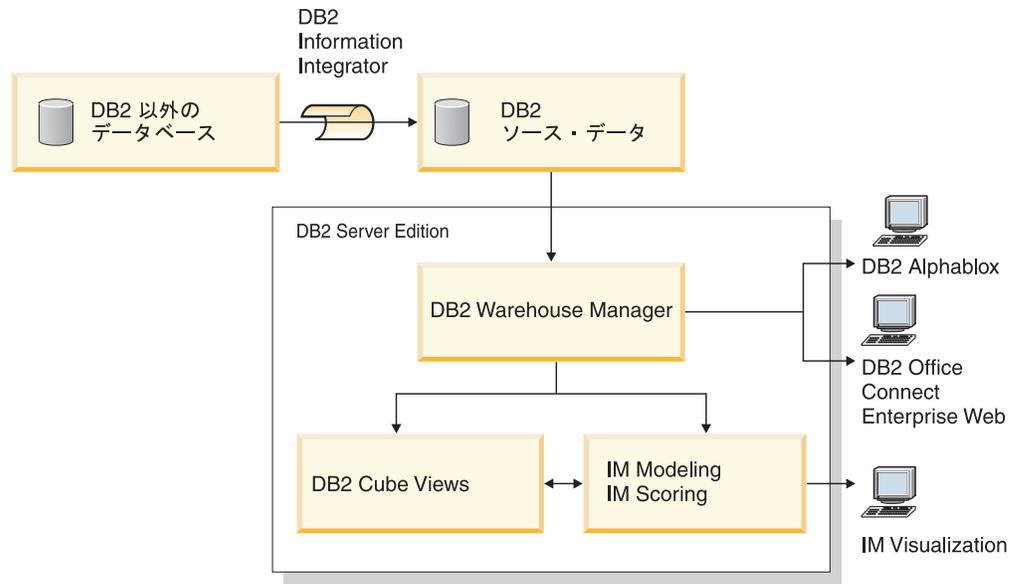
アクション	ツール	コメント
DB2 以外のデータベースから DB2 データベースにデータを統合する。	<ul style="list-style-type: none">DB2 Information IntegratorDB2 Warehouse Manager	DB2 Information Integrator 内のラッパーと DB2 Warehouse Manager を併用して、DB2 以外の ETL の RDBMS ソースからデータをインポートできます。
ご使用のリレーショナル・データ・ソース表を識別する。	DB2 UDB Enterprise Server Edition	企業内のビジネス・トランザクションを使用して、操作可能データベース・ソースが構築されます。このデータをデータウェアハウスのソースとして使用できます。
<ul style="list-style-type: none">データをトランスフォームしてデータマートを作成する。Excel スプレッドシート中に 1 つのデータマートか複数のデータマート表を表示する。	<ul style="list-style-type: none">DB2 Warehouse ManagerDB2 Office Connect	DB2 Office Connect を使用して、Microsoft Excel スプレッドシートにデータウェアハウスのデータを表示できます。
<ul style="list-style-type: none">OLAP スタイルのキューブを定義し、これらのキューブに発行する照会を最適化する。キューブ・メタデータを Excel スプレッドシートに表示する。	DB2 Cube Views	DB2 Cube Views を使用して、キューブ・メタデータを DB2 カタログに格納できません。

表 3. DB2 Data Warehouse Enterprise Edition を使用したデータ分析 (続き)

アクション	ツール	コメント
<ul style="list-style-type: none"> マイニング・モデルを作成する。 スコア機能によりマイニング・モデルを配備する。 モデルを表示する。 	<ul style="list-style-type: none"> DB2 Intelligent Miner Modeling DB2 Intelligent Miner Scoring DB2 Intelligent Miner Visualization 	<p>DB2 Intelligent Miner ユーティリティを呼び出してアプリケーションを構築するか、またはパートナー・ワークベンチを使用してモデルを構築し、PMML を使用して DB2 中にインプリメントできます。</p> <p>DB2 Intelligent Miner Visualization を使用したモデルの表示や、リアルタイム分析アプリケーションの SQL プロシージャ呼び出しを使用した DB2 Intelligent Miner Scoring の呼び出しが可能です。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ご使用のビジネス・アプリケーションに分析機能を追加する。 	DB2 Alphablox	DB2 Alphablox のコンポーネント・ベース Blox アーキテクチャーを使用して、アプリケーションを作成できます。

このデータ・フロー全体で DB2 Query Patroller を使用して、リレーショナル照会を管理できます。例えば、データウェアハウス照会 (ETL および OLAP) の場合、ユーザー、アプリケーション、またはリソースに応じて照会の優先順位を自動的に調整し、DB2 Query Patroller が収集する情報に関するパフォーマンスを向上させることができます。DB2 Query Patroller を使用して、照会の結果をキャッシュに入れ、収集した統計を再利用して分析し、照会実行時の傾向を判別することもできます。

以下の図に、DB2 Data Warehouse Enterprise Edition のデータ・フローのシナリオが要約されています。



IM: Intelligent Miner

図1. DB2 Data Warehouse Enterprise Edition の製品コンポーネントを使用したデータの収集と分析

第 5 章 DB2 Data Warehouse Edition のインストール

このセクションでは、DWE のインストール方法について説明します。DWE の製品コンポーネントをインストールする前に、各製品コンポーネントの資料、ハードウェアおよびソフトウェア要件を確認してください。

注:

1. 各製品コンポーネントは個別にインストールできますが、DWE 統合インストール・プログラムを使用することをお勧めします。
2. DB2 Data Warehouse Base Edition は統合インストール・プログラムではインストールできません。Base Edition のコンポーネントは個別にインストールする必要があります。

DB2 Data Warehouse Edition のアップグレード

DWE バージョン 8.2 より前のいずれかのバージョンの DWE 製品コンポーネントをインストール済みである場合、DWE バージョン 8.2 または DWE バージョン 8.2.1 の CD を使用してその製品コンポーネントをアップグレードすることはできません。各製品コンポーネントを個別にインストールする必要があります。各製品コンポーネントをインストールするには、インストール済みの各製品コンポーネントの Web サイトにアクセスし、それぞれの最新フィックスパックをダウンロードしてください。すべての製品コンポーネントを同じフィックスパック・レベルにする必要があります。

Windows オペレーティング・システムに DB2 Universal Database バージョン 6 またはバージョン 7 がインストールされている場合は、その製品のインストーラーを使用して DB2 UDB バージョン 8.2 にアップグレードする必要があります。これにより、DWE インストール・プログラムを使用して、その他の DWE 製品コンポーネントをインストールできるようになります。UNIX および Linux オペレーティング・システムの場合は、同じソフトウェアの複数の異なるバージョンをインストールできます。このため、アクションは不要です。

どのレベルの DWE からアップグレードするかにより、ご使用のシステムに ITLM シグニチャー・ファイルを手動でコピーする必要がある場合があります。

DWE 8.2 からのアップグレード

DWE バージョン 8.2 から DWE バージョン 8.2.1 にアップグレードする場合、ITLM ファイルをコピーする必要はありません。22 ページの『DWE のインストールの前に』に進んでください。

DWE 8.2 より前のリリースからのアップグレード

バージョン 8.2 より前のリリースからバージョン 8.2.1 にアップグレードする場合、ご使用のシステムに適切な ITLM シグニチャー・ファイルをコピーする必要があります。ITLM シグニチャー・ファイルをコピーするには、以下を実行します。

1. DB2 のインストール・ロケーションと同じ階層に DWE というディレクトリーを作成します。
 - AIX の場合: DB2 インストール・ロケーションが `/usr/opt/db2_08_01` である場合、DWE ディレクトリーは `/usr/opt/dwe` になります。
 - Linux および Solaris の場合: DB2 インストール・ロケーションが `/opt/IBM/db2/V8.1` である場合、DWE ディレクトリーは `/opt/IBM/dwe` になります。
 - Windows の場合: DB2 インストール・ロケーションが `c:\Program Files\SQLLIB` である場合、DWE ディレクトリーは `c:\Program Files\dwe` になります。
2. 適切なライセンス・シグニチャー・ファイルを DWE ディレクトリーにコピーします。シグニチャー・ファイルは DWE インストール CD の `install/itlm` ディレクトリーにあります。コピーすべきファイルは、ご使用のオペレーティング・システムと、インストール済みの DWE エディションにより異なります。

命名規則は `db2EditionPlatformVersion.sys` です。各値について以下に説明します。

Edition

- Data Warehouse Enterprise Edition をインストールした場合は、`db2dwee` に置き換えます。
- Data Warehouse Standard Edition をインストールした場合は、`db2dwse` に置き換えます。

DB2 Data Warehouse Base Edition は統合インストール・プログラムではインストールできません。

Platform

- AIX オペレーティング・システムの場合は、`x` に置き換えます。
- Linux オペレーティング・システムの場合は、`l` に置き換えます。
- Solaris オペレーティング・システムの場合は、`s` に置き換えます。
- Windows オペレーティング・システムの場合は、`w` に置き換えます。

Version

バージョンは `080201` です。

例えば、Data Warehouse Enterprise Edition for AIX をインストールした場合は、`db2dweex080201.sys` ファイルをコピーすることになります。

DWE のインストールの前に

DWE をインストールする際、一部の製品コンポーネントについてどのようにインストールおよび構成するか、重要な決断をする必要があります。DWE のインストールを開始する前に、以下のオプションについて検討してください。

- DB2 Data Warehouse Base Edition を購入した場合、統合インストール・プログラムを使用することはできません。Base Edition のコンポーネントは個別にインストールする必要があります。
- すでにシステムに DB2 UDB をインストール済みである場合、DWE インストール・プログラムは DB2 処理をすべて停止し、その他の製品コンポーネントをインストールします。DWE のインストールを開始する前に、サーバー上でデータベースが使用中でないことを確認してください。

- DB2 Data Warehouse Enterprise Edition のお客様の場合、DB2 UDB Enterprise Server Edition にはパーティション機能が含まれます。複数のパーティションで DB2 を実行する場合、関係するすべてのサーバーに DB2 をインストールします。パーティション上のインストールの詳細については、マニュアル「DB2 UDB サーバー機能 概説およびインストール」を参照してください。インストールが完了したら、DWE インストール・プログラムを使用して、インスタンス所有のサーバーにその他の製品コンポーネントをインストールできます。インストール完了後、すべてのパーティションのサーバーが同じフィックスバックのレベルであることを確認してください。
- DB2 Data Warehouse Enterprise Edition には、DB2 Information Integrator リレーショナル・ラッパーを使用可能にする、DB2 Information Integrator Standard Edition の限定ライセンスが含まれます。このため、リレーショナル・ラッパーを使用可能な DB2 Information Integrator のライセンスを保有しており、それが DWE ライセンスで提供されるエディションでない場合は、DWE ライセンスではなくそのライセンスを使用する必要があります。
- DB2 Warehouse Manager Standard Edition は、32 ビット DB2 インスタンス下の 64 ビット・オペレーティング・システムで実行できます。また、ウェアハウス・サーバー、ウェアハウス・コントロール・データベース、およびウェアハウス・エージェントなどすべてのウェアハウス・コンポーネントを 32 ビット DB2 インスタンスで実行している場合に限り、DB2 Warehouse Manager を使用して 64 ビット DB2 インスタンス上のデータを移動できます。64 ビット・ウェアハウス・ソースおよび 64 ビット・ウェアハウス・ターゲットと同じワークステーションで DB2 Warehouse Manager を稼働させるには、以下のステップを実行します。
 1. DB2 コマンド行で次のコマンドを入力し、32 ビット DB2 インスタンスを定義します。

```
db2icrt
```

詳細については、「DB2 インストールおよび構成 補足」の『db2icrt によるインスタンスの作成』を参照してください。このトピックは、DB2 インフォメーション・センターでも参照できます。
 2. 使用する Warehouse Manager コンポーネントをインストールします。詳細については、「DB2 ウェアハウス・マネージャー インストールの手引き」または DB2 インフォメーション・センターを参照してください。
 3. IWH.environment ファイルが、定義済みの 32 ビット DB2 インスタンスを指していることを確認します。ウェアハウス・サーバー、ウェアハウス・エージェント、およびウェアハウス・コントロール・データベースがこの 32 ビット DB2 インスタンスにあることを確認します。
 4. ウェアハウス・コンポーネントがある 32 ビット・インスタンスで、DB2 コマンド行で次のコマンドを入力し、64 ビット・ウェアハウス・ソース・データベースおよび 64 ビット・ウェアハウス・ターゲット・データベースをカタログします。

```
CATALOG TCPIP NODE node-name SERVER service-name REMOTE_INSTANCE
nstance-name CATALOG DB 64bitDB AT NODE node-name
```
- リモート・システムから DB2 インフォメーション・センターをホスティングし、そのリモート・システムから DB2 の資料にアクセスする場合は、変数 DB2_DOCHOST および DB2_DOCPORT の値を変更する必要があります。これら

の変数の変更方法については、次の URL のトピック『DB2 インフォメーション・センターへのアクセスのロケーションの設定』を参照してください。

<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/db2help/index.jsp?topic=/com.ibm.db2.udb.common.doc/common/settingdocloc.htm>

- DB2 Cube Views について Excel スプレッドシートでキューブ・データを表示する場合、IBM では IBM DB2 Alphablox をインストールすることをお勧めしています。あるいは、DB2 Cube Views Web サイトから入手可能な IBM DB2 Office Connect Analytics Edition をインストールすることもできます。DB2 Alphablox と Office Connect Analytics Edition はいずれも統合インストール・プログラムに含まれないため、個別にインストールおよび構成する必要があります。
- すべての製品コンポーネントのインストールが完了したら、入手可能なすべての PTF (プログラム一時修正) をダウンロードし、インストールしてください。

詳細については、DWE インストール CD 内のファイル readme.txt を参照してください。

注: DWE インストーラーは、DWE のインストール後に個別にインストールする必要がある DB2 Alphablox と DB2 Office Connect を除き、すべての製品コンポーネントをインストールします。DWE には DB2 Alphablox および DB2 Office Connect 用のインストール CD が付属しています。

インストールの順序

DWE の製品スイートは、インストールする DWE のバージョンにより異なります。DWE のインストール・セットアップ中、DWE の主要なインストールの完了後に個別にインストールできる DB2 Alphablox および Office Connect を除き、製品コンポーネントごとにインストール・メディアを要求されます。25 ページの図 2 に、DB2 Data Warehouse Enterprise Edition で使用可能な製品を示します。この図は、製品コンポーネントがインストールされる順序も示します。

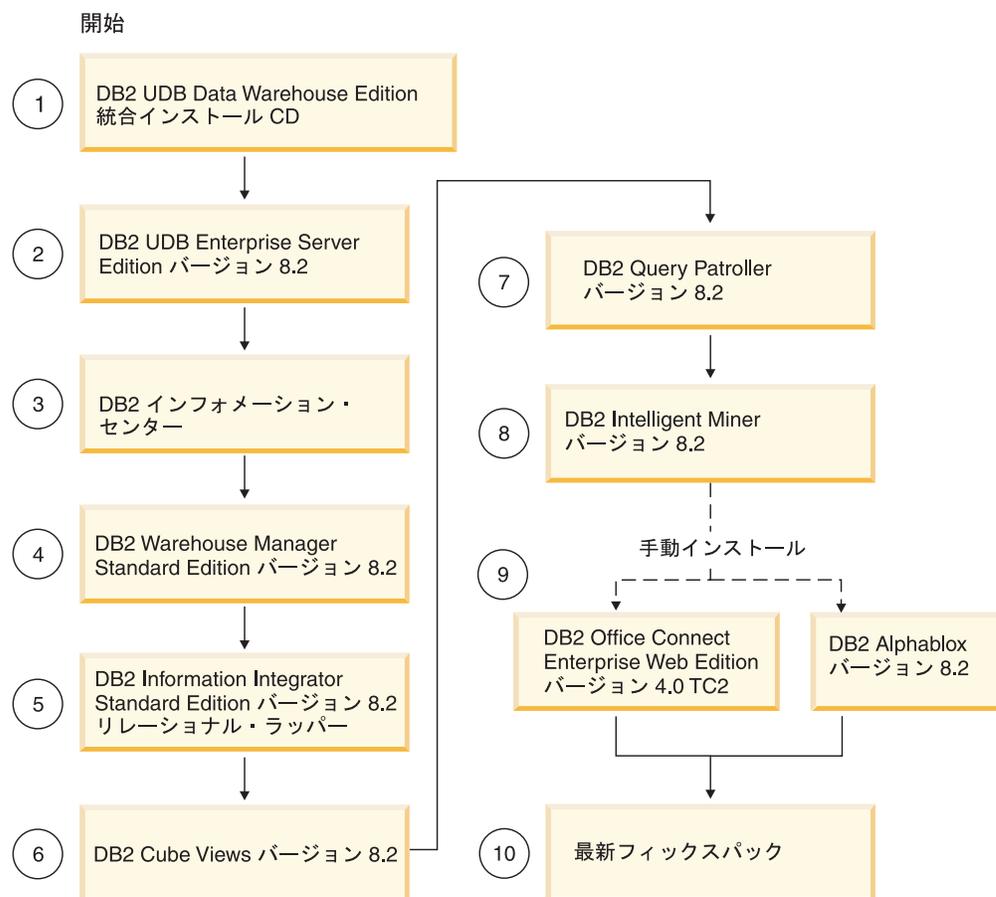


図2. DB2 Data Warehouse Enterprise Edition のインストール順序

DWE のインストールで使用可能なショートカット・キー

DWE インストール・プログラムでは、すべてのアクションについて、マウスの代わりにキーボードを使用できます。次の表に、ショートカット・キーとそのアクションを示します。

表4. DWE インストール・プログラムで使用可能なショートカット・キー

アクション	キー
ウィンドウ内の次のフィールドに移動する	Tab
ウィンドウ内の前のフィールドに移動する	Shift + Tab
終了する	Alt + F4
次の構成ステップに進む	Alt + N
前の構成ステップに戻る	Alt + B
ドロップダウン・リスト内の次の選択項目に移動する	下矢印
ドロップダウン・リスト内の前の選択項目に移動する	上矢印

Windows でインストール・パネル・ボタンのニーモニックを表示するには、Alt キーを押します。

Windows でのインストールの開始

DWE を Windows にインストールするには、以下のステップを実行します。

1. 実行中のプログラムをすべて閉じます。
2. *DB2 UDB Data Warehouse Edition - 統合インストール CD* を CD ドライブに挿入します。
3. CD が挿入されたドライブで、**setup.bat** をダブルクリックしてランチパッド・ウィンドウを開きます。

ランチパッド・ウィンドウが開きます。

4. 「インストール」をクリックします。

ご使用のシステムで Windows 自動実行機能が有効になっている場合、「自動実行を使用しない」ウィンドウが表示されます。DWE インストール・プログラムを起動させるには、この機能をオフにする必要があります。「このボックスにチェックマークを付けて自動実行をオフにする」チェック・ボックスを選択します。「次へ」をクリックし、「完了」をクリックします。システムがシャットダウンし、再始動します。ステップ 2 および 3 を繰り返します。自動実行機能は DWE インストールの最後に有効に戻すことができます。

「ソフトウェアのご使用条件」ウィンドウが開きます。

5. 製品のライセンスについて確認後、「**I accept the terms in the license agreement**」を選択し、「次へ」をクリックします。

インストールする製品およびインストールのタイプの指定ウィンドウが開きます。

6. **Data Warehouse Enterprise Edition** と **Data Warehouse Standard Edition** のどちらをインストールするか選択してください。
7. DWE をクライアントとサーバーのどちらにインストールするか選択してください。

注: 以下のステップは、DB2 Data Warehouse Enterprise Edition をインストールすることを前提としています。DB2 Data Warehouse Standard Edition のインストール・ウィンドウは異なる可能性があります。Data Warehouse Enterprise Edition および Standard Edition の両方にサーバーまたはクライアントをインストールできます。この場合も、インストール・ウィンドウはオペレーティング・システムにより異なる可能性があります。

8. 「次へ」をクリックします。インストール可能な製品コンポーネントを示すウィンドウが開きます。
9. デフォルトでは、すべての製品コンポーネントが選択されています。インストールしない製品コンポーネントがある場合は、該当するチェック・ボックスの選択を解除してください。
10. 「次へ」をクリックします。インストール・メディアのロケーション指定ウィンドウが開きます。
11. 以下のいずれかのステップを実行してください。

- 製品コンポーネントのすべてのインストール・メディアを 1 つのロケーションにインストールする場合は、「すべてのコンポーネントに対して単一のメディア・ロケーションを設定する」を選択し、ロケーションを指定します。
- 各製品コンポーネントのインストール・メディアに異なるロケーションを指定する場合は、「メディア・ロケーションを個別に設定する」を選択し、各製品コンポーネントについてインストール・メディアのロケーションを入力します。

注: このステップでは、メディア・ドライブのロケーションの定義のみが行われます。インストール・ディレクトリーのロケーションについては、次のウィンドウで指定できます。

12. 「次へ」をクリックします。製品コンポーネントのインストール・ロケーション指定ウィンドウが開きます。
13. 製品コンポーネントをインストールするロケーションを指定し、「次へ」をクリックします。
 - DB2 UDB をインストールする場合、「DB2 インスタンス所有者の情報」ウィンドウが開きます。ステップ 14 に進みます。
 - DWE を Windows にインストールし、DB2 UDB をインストールしない場合、サマリー・ウィンドウが開きます。ステップ 18 に進みます。
14. DB2 UDB をインストールする場合は、「DB2 インスタンス所有者の情報」ウィンドウでユーザー名とパスワードを入力する必要があります。ユーザー名およびパスワードの指定方法の詳細については、マニュアル「DB2 UDB サーバー機能 概説およびインストール」を参照してください。
15. 「次へ」をクリックします。「ポート番号」ウィンドウが開きます。
16. 「インスタンス・ポート番号」フィールドに、DB2 インフォメーション・センター用のポート番号を入力します。

リモート・システムから DB2 インフォメーション・センターをホスティングし、そのリモート・システムから DB2 の資料にアクセスする場合は、変数 DB2_DOCHOST および DB2_DOCPORT の値を変更する必要があります。これらの変数の変更方法については、<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/db2help/index.jsp> からトピック『DB2 インフォメーション・センターへのアクセスのロケーションの設定』を参照してください。

17. 「次へ」をクリックします。サマリー・ウィンドウが開きます。
18. サマリー・ウィンドウを確認します。このウィンドウには、インストールする DWE 製品コンポーネントとそのインストール・ロケーションが表示されます。続行するには「次へ」をクリックします。

DWE インストーラーにより、必要な場合に製品 CD の挿入を要求されます。最後の製品がインストールされると、DWE のインストールの完了を示すウィンドウが表示されます。

UNIX および Linux でのインストールの開始

DWE を UNIX または Linux オペレーティング・システムにインストールするには、以下のステップを実行します。

1. 実行中のプログラムをすべて閉じます。
2. *DB2 UDB Data Warehouse Edition - 統合インストール CD* を CD ドライブに挿入します。

Linux の場合: *DB2 UDB Data Warehouse Edition - 統合インストール CD* を CD ドライブに挿入する前に、一時ディレクトリーを作成して、ご使用のオペレーティング・システムが CD ドライブをアンマウントできるようにしてください。Linux でインストール・プロセスを開始するには、以下のステップを実行します。

- a. 端末ウィンドウを開きます。
- b. 次のコマンドを実行し、一時ディレクトリーを作成します。

```
mkdir /dwe
```

- c. *DB2 UDB Data Warehouse Edition - 統合インストール CD* を CD ドライブに挿入します。

- d. 以下のコマンドを、この順序で実行します。

```
umount /mnt/cdrom  
mount -t iso9660 /dev/cdrom /dwe  
/dwe/setup.sh
```

- e. DWE インストーラーにより、インストール・プロセスの続行のために次の CD を挿入するよう要求された場合は、以下のコマンドを実行して CD ドライブをアンマウントします。

```
umount /dwe
```

CD ドライブをマウントできない場合は、DWE ウィンドウの 1 つが閉じてからこのコマンドを再実行してください。

- f. 次の CD を挿入し、「OK」をクリックします。
 - g. 以下のインストール手順を続行します。
3. インストール CD を挿入したドライブに移動し、ご使用のオペレーティング・システム用のインストール・セットアップ・ファイルを確認します。

コマンド・プロンプトで次のコマンドを実行し、DWE ランチパッドを開きます。

```
/cd-location/setup.sh
```

cd-location は CD が挿入されたディレクトリー名です。

インストール・プロセス中に CD を変更できるようにするため、*setup.sh* コマンドは CD ディレクトリー以外で実行してください。CD ディレクトリー内で *setup.sh* コマンドを実行すると、DWE プログラムで CD ドライブをアンマウントできなくなります。

DWE ランチパッド・ウィンドウが開きます。

4. 「インストール」をクリックします。

「ソフトウェアのご使用条件」ウィンドウが開きます。

5. 製品のライセンスについて確認後、「**I accept the terms in the license agreement**」を選択します。
6. 「次へ」をクリックします。インストールする製品およびインストールのタイプの指定ウィンドウが開きます。
7. **Data Warehouse Enterprise Edition** と **Data Warehouse Standard Edition** のどちらをインストールするか選択してください。
8. DWE をクライアントとサーバーのどちらにインストールするか選択してください。

注: 以下のステップは、DB2 Data Warehouse Enterprise Edition をインストールすることを前提としています。DB2 Data Warehouse Standard Edition のインストール・ウィンドウは異なる可能性があります。Data Warehouse Enterprise Edition および Standard Edition の両方にサーバーまたはクライアントをインストールできます。この場合も、インストール・ウィンドウはオペレーティング・システムにより異なる可能性があります。

9. 「次へ」をクリックします。インストール可能な製品コンポーネントを示すウィンドウが開きます。
10. デフォルトでは、すべての製品コンポーネントが選択されています。インストールしない製品コンポーネントがある場合は、該当するチェック・ボックスの選択を解除してください。
11. 「次へ」をクリックします。インストール・メディアのロケーション指定ウィンドウが開きます。
12. 以下のいずれかのステップを実行してください。
 - 製品コンポーネントのすべてのインストール・メディアを 1 つのロケーションにインストールする場合は、「すべてのコンポーネントに対して単一のメディア・ロケーションを設定する」を選択し、ロケーションを指定します。
 - 各製品コンポーネントのインストール・メディアに異なるロケーションを指定する場合は、「メディア・ロケーションを個別に設定する」を選択し、各製品コンポーネントについてインストール・メディアのロケーションを入力します。

注: このステップでは、メディア・ドライブのロケーションの定義のみが行われます。インストール・ディレクトリーのロケーションについては、次のウィンドウで指定できます。

13. 製品コンポーネントをインストールするロケーションを指定し、「次へ」をクリックします。

DB2 UDB をインストールする場合、「DB2 インスタンス所有者の情報」ウィンドウが開きます。ステップ 14 (30 ページ) に進みます。

DWE を UNIX または Linux にインストールし、DB2 UDB をインストールしない場合、サマリー・ウィンドウが開きます。ステップ 22 (30 ページ) に進みます。

14. 「DB2 インスタンス所有者の情報」ウィンドウで、ユーザー名とパスワードを入力します。ユーザー名およびパスワードの指定方法の詳細については、マニュアル「DB2 UDB サーバー機能 概説およびインストール」を参照してください。
15. 「インスタンス名」フィールドに、インスタンス所有者が属するグループ名を入力します。
16. AIX の場合: 32 ビットと 64 ビットのどちらのインスタンスを作成するか選択します。
17. 「次へ」をクリックします。管理ユーザーの情報指定ウィンドウが開きます。
18. 管理ユーザーの情報指定ウィンドウで、以下のフィールドに入力します。
 - a. 「管理ユーザー」フィールドに、管理ユーザーの名前を入力します。
 - b. 「パスワード」および「パスワードの確認」フィールドに、管理ユーザーのパスワードを入力します。
 - c. 「管理グループ名」フィールドに、管理ユーザーが属するグループの名前を入力します。
 - d. 「次へ」をクリックします。「fenced ユーザー情報」ウィンドウが開きます。
19. 「fenced ユーザー情報」ウィンドウで、以下のフィールドに入力します。
 - a. 「fenced ユーザー」フィールドに、fenced ユーザーの名前を入力します。
 - b. 「パスワード」および「パスワードの確認」フィールドに、fenced ユーザーのパスワードを入力します。
 - c. 「fenced グループ名」フィールドに、fenced ユーザーが属するグループの名前を入力します。
 - d. 「次へ」をクリックします。「ポート番号」ウィンドウが開きます。
20. 「インスタンス・ポート番号」フィールドに、DB2 インフォメーション・センター用のポート番号を入力します。

リモート・システムから DB2 インフォメーション・センターをホスティングし、そのリモート・システムから DB2 の資料にアクセスする場合は、変数 DB2_DOCHOST および DB2_DOCPORT の値を変更する必要があります。これらの変数の変更方法については、<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/db2help/index.jsp> からトピック『DB2 インフォメーション・センターへのアクセスのロケーションの設定』を参照してください。
21. 「次へ」をクリックします。サマリー・ウィンドウが開きます。
22. サマリー・ウィンドウを確認します。このウィンドウには、インストールする DWE 製品コンポーネントとそのインストール・ロケーションが表示されます。続行するには「次へ」をクリックします。DWE インストーラーにより、必要な場合に製品 CD の挿入を要求されます。最後の製品がインストールされると、DWE のインストールの完了を示すウィンドウが表示されます。
 - Linux の場合: DWE インストーラーにより、必要な場合に製品 CD の挿入を要求されます。最後の製品がインストールされると、DWE のインストールの完了を示すウィンドウが表示されます。

- AIX および Solaris の場合: インストーラーの解凍ロケーション指定ウィンドウが開きます。インストール CD の一部には圧縮ファイルが含まれているため、解凍する必要があります。インストール・ディスク・イメージの解凍先ロケーションを選択します。指定したディレクトリーには 2GB 以上の空き容量が必要です。

「次へ」をクリックします。DWE インストーラーにより、必要な場合に製品 CD の挿入を要求されます。最後の製品がインストールされると、DWE のインストールの完了を示すウィンドウが表示されます。

DB2 Alphablox または DB2 Office Connect のインストール

他の DWE 製品コンポーネントのインストール後、DB2 Alphablox または DB2 Office Connect をインストールできます。

DB2 Alphablox をインストールするには、以下を実行します。

1. DB2 Alphablox CD を CD ドライブに挿入します。
2. CD 内の `install_guide` ディレクトリーにある、該当言語の「DB2 Alphablox インストール・ガイド」を確認し、この資料に記載されたインストール手順に従います。

DB2 Office Connect をインストールするには、以下を実行します。

1. DB2 Office Connect CD を CD ドライブに挿入します。
2. Web ブラウザーを開きます。
3. CD 内の資料 `InstallNotes¥locale¥WebEditionInstall.html` を開きます。ここで、`locale` はコンピューターの言語ロケールです。例えば、英語は `en`、スペイン語は `es`、フランス語は `fr`、などのようになります。
4. このファイル内のインストール手順に従ってください。

第 6 章 DB2 Data Warehouse Edition のアンインストール

このセクションでは、ご使用のシステムから DWE Standard Edition および DWE Enterprise Edition をアンインストールする方法を説明します。DB2 Data Warehouse Base Edition をインストールした場合は、各コンポーネントの説明に従ってコンポーネントを手動でアンインストールする必要があります。

重要: DWE アンインストール・プログラムでは、アンインストール対象の特定のコンポーネントを選択できません。アンインストール・プログラムでは、DB2 Alphablox または DB2 Office Connect を除くすべての DWE 製品コンポーネントがアンインストールされます。DWE のインストール前に DWE の製品コンポーネントをインストールした場合、その製品コンポーネントも除去されます。例えば、DWE のインストール前に DB2 をインストールした場合、DWE のアンインストール時に DB2 とそのコンポーネントもすべて除去されます。

DWE をアンインストールするには、以下を実行してください。

1. *DB2 UDB Data Warehouse Edition - 統合インストール CD* を CD ドライブに挿入します。
2. CD を挿入したドライブに移動し、ご使用のオペレーティング・システム用のインストール・セットアップ・ファイルを指定します。
 - Windows の場合: **setup.bat** をダブルクリックし、ランチパッド・ウィンドウを開きます。
 - UNIX および Linux の場合: 以下をコマンド・プロンプトで入力し、DWE ランチパッドを開きます。

```
/cd-location/setup.sh
```

cd-location は CD が挿入されたディレクトリー名です。

ランチパッド・ウィンドウが開きます。

3. 「**アンインストール**」をクリックします。アンインストールされる製品コンポーネントをリストしたウィンドウが開きます。
4. 「**次へ**」をクリックします。アンインストール・プロシージャーが開始されます。最後の製品コンポーネントがアンインストールされると、DWE のアンインストールの完了を示すウィンドウが表示されます。

付録 A. エラー・メッセージ

この付録には、DWE のインストールまたはアンインストール中に表示される可能性のあるエラー・メッセージと、ログ・ファイルのロケーションを示します。

- DWE0002E: *fieldname* の値を入力してください。

ウィンドウ上の必要フィールドにデータが入力されていません。このフィールドには情報を入力する必要があります。

- DWE0003E: パスワード・フィールドが一致しません。

「パスワード」および「パスワードの確認」フィールドに入力したパスワードが一致しません。両方のフィールドにパスワードを再入力し、「次へ」をクリックします。

- DWE0004E: *fieldname* に指定されたストリングが長すぎます。 *number* 文字以内に入力してください。

制限文字数以内で、指定されたフィールドの情報を再入力してください。

- DWE0005E: ユーザー名、パスワード、およびグループ名には、英数字と以下の特殊文字のみを使用できます。@、#、\$、および _

ユーザー名、パスワード、またはグループ名のフィールドに不正な文字を使用しました。英数字とメッセージにリストされた特殊文字のみを使用して、フィールドの情報を再入力してください。「次へ」をクリックします。

- DWE0006E: 次の語は予約語であるため、ユーザー名またはグループ名として使用できない可能性があります。USERS、ADMINS、GUESTS、PUBLIC、LOCAL、または SQL 予約語

ユーザー名、パスワード、またはグループ名のフィールドに予約語を使用しました。リストされた予約語以外を使用して情報を再入力してください。「次へ」をクリックします。

- DWE0007E: ユーザー名およびグループ名には、IBM、SQL、または SYS から始まる名前を使用できない可能性があります。

IBM、SQL、または SYS を使用したユーザー名またはグループ名を入力しました。これらの文字の組み合わせを使用せずに情報を再入力してください。「次へ」をクリックします。

- DWE0008E: ポート番号は数値でなければなりません。

「インスタンス・ポート番号」フィールドに英字を使用しました。数字のみを使用して、フィールドに情報を再入力してください。

- DWE0009E: 1 つ以上の DB2 コンポーネントが、フィックスパック 7 より前のレベルでご使用のシステムにすでにインストールされています。このインストール・プログラムを使用して残りの製品をインストールするには、フィックスパック 7 を手動で適用する必要があります。フィックスパック 7 は次の Web サイトから入手可能です。 <http://www.ibm.com/software/data/db2/udb/support.html>

DWE インストール・プログラムを終了し、メッセージに示された Web サイトからフィックスパック 7 をダウンロードしてください。フィックスパック 7 の適用後、DWE のインストールを再度開始してください。

- DWE0010W: 1 つ以上の DB2 コンポーネントが、フィックスパック 7 より後のレベルでご使用のシステムにすでにインストールされています。このインストール・プログラムを使用して残りの製品インストールするには、現在のフィックスパック・レベルで、他の製品のフル・リフレッシュ・イメージを入手する必要があります。次の DWE インストール・プログラムへ進みますか？

DWE インストール・プログラムを終了し、製品コンポーネントのサポート・サイトから最新のフィックスパックをダウンロードしてください。DWE のインストールを再度開始します。このメッセージが再度表示される場合は、「はい」をクリックして DWE のインストールを続行します。インストール・メディアのロケーションを指定するウィンドウでは、必ず製品コンポーネントのフィックスパックをダウンロードしたディレクトリを指定してください。

- DWE0011E: このコンポーネントは、残りのコンポーネントの前提条件となっておりません。ここでインストール・プログラムは終了します。エラーに関しては、製品のインストール・ログをチェックしてください。

必須の製品コンポーネントのインストールに失敗しました。この問題を解決しないと、DWE のインストールは続行できません。製品コンポーネントのインストール・ログを確認してください。

- DWE0012E: DB2 の停止処理が正常に実行されなかったため、コンポーネントはアンインストールされませんでした。

DB2 サービスが停止しなかったため、アンインストール処理を実行できませんでした。

- DWE0013E: Information Integrator コンポーネントを 1 つ以上選択してください。

DB2 Information Integrator リレーショナル・ラッパーをインストールするよう指定しましたが、コンポーネントを選択していません。以下の 1 つ以上のコンポーネント・チェック・ボックスを選択してください。

- II ODBC サポート
- II Oracle サポート
- II SQL Server サポート
- II Sybase サポート
- II Teradata サポート
- II Custom サポート

- DWE0014E: Intelligent Miner コンポーネントを 1 つ以上選択してください。

DB2 Intelligent Miner をインストールするよう指定しましたが、コンポーネントを選択していません。以下の 1 つ以上のコンポーネント・チェック・ボックスを選択してください。

- DB2 Intelligent Miner Scoring V8.2
- DB2 Intelligent Miner Modeling V8.2
- DB2 Intelligent Miner Visualization V8.2

- DWE0015E: インストールするコンポーネントが選択されていません。

インストールする DWE 製品コンポーネントを選択していません。インストールする製品コンポーネントのチェック・ボックスを選択してください。

- DWE0016E: ご使用のシステムにインストールされている 1 つ以上の DB2 コンポーネントは、フィックスパック 7 より前のレベルです。このプログラムを使用して DWE をアンインストールする場合は、コンポーネントがフィックスパック 7 のレベルでインストールされている必要があります。

以下のいずれかのアクションを実行してください。

- すべての DWE 製品コンポーネントがフィックスパック 7 レベルであることを確認し、再実行する。
- 製品コンポーネントを個別にアンインストールする。
- DWE0017W: ご使用のシステムにインストールされている 1 つ以上の DB2 コンポーネントは、フィックスパック 7 より後のレベルです。このプログラムを使用して DWE をアンインストールする場合は、コンポーネントがフィックスパック 7 のレベルでインストールされている必要があります。DWE アンインストール・プログラムを続行しますか?

続行すると、アンインストール・プログラムが失敗する場合があります。製品コンポーネントを個別にアンインストールしてください。

- DWE0018W: 64 ビット・インスタンスの作成を選択しました。このインスタンスで Java テクノロジーに依存する DB2 機能を使用する場合は、64 ビット JDK または JRE もインストールする必要があります。

DB2 を正常に機能させるには、DWE のインストール完了後、64 ビット Java Development Kit または Java Runtime Environment をインストールする必要があります。

- DWE0019W: Linux では、DWE のインストール開始前に CD をドライブにマウントできません。DWE のインストール開始時に CD がマウントされている場合は、DWE インストール・プログラムを終了しないと CD をアンマウントできません。DWE インストールが CD にある場合は、CD の内容全体をハード・ディスク・ドライブのロケーションにコピーして、そこからインストール・プログラムを開始してください。インストール・プログラムを続行する場合は「OK」、終了する場合は「キャンセル」をクリックします。

DWE のインストール開始前に *DB2 UDB Data Warehouse Edition - 統合インストール CD* をドライブにマウントした場合は、「キャンセル」をクリックしてインストール・プログラムを終了してください。次に、*DB2 UDB Data Warehouse Edition - 統合インストール CD* の内容をハード・ディスクのロケーションにコピーし、そこから DWE のインストールを開始してください。

ログ・ファイルのロケーション

DWE のいずれかのエディションのインストールに問題がある場合は、ログ・ファイルを参照してその問題を特定できます。

Windows では、以下のログ・ファイルが %TEMP% ディレクトリーに配置されています。

表 5. ログ・ファイルのロケーション

製品コンポーネント	ログ・ファイルのロケーション
DWE Enterprise Edition、DWE Standard Edition	dwe_install.log
DB2 Cube Views	cvinst.log
DB2 インフォメーション・センター	db2doc.log
DB2 Information Integrator Standard Edition	iiinst.log
DB2 Intelligent Miner	iminst.log
DB2 UDB Enterprise Server Edition、DB2 UDB Workgroup Server Unlimited Edition	db2inst.log
DB2 UDB Administration Client	db2adm.log
DB2 UDB Runtime Client	db2rt.log
DB2 Query Patroller	qpinst.log
DB2 Warehouse Manager	db2wm.log

db2wi.log ファイルには、インストールに関する補足情報も含まれる場合があります。このログは、ご使用のシステムの一時ディレクトリーにあります。

DWE Enterprise Edition または DWE Standard Edition のアンインストール中に問題が発生した場合は、dwe_uninstall.log ファイルを確認してください。

UNIX および Linux では、DB2 製品のインストール情報について、デフォルトの一時ディレクトリー (通常は /tmp) にある db2setup.log ファイルを参照してください。このログ内の情報は、db2setup.his ファイルに付加されます。

DB2 Alphablox のログ・ファイルについては、DB2 Alphablox の資料を参照してください。

付録 B. トラブルシューティング

このセクションでは、DB2 Data Warehouse Enterprise Edition または DB2 Data Warehouse Standard Edition に含まれる製品のインストール時に発生する可能性のある制約事項および問題について説明します。

UNIX または Linux システムで、インストール中に DWE ランチパッドが表示されない。

UNIX および Linux システムでは、『インストールの開始』で説明されているとおりにコマンドを発行し、ランチパッドを表示させる必要があります。CD のロケーションにナビゲートして `setup.sh` を入力することはできません。次のコマンドをルート・ディレクトリーから実行してください。

```
/cd-location/setup.sh
```

`cd-location` は CD が挿入されたディレクトリー名です。

Windows で DB2 UDB Enterprise Server Edition または DB2 UDB Workgroup Server Unlimited Edition のインストールが失敗し、エラー・メッセージも表示されない。

「DB2 インスタンス所有者」ウィンドウで間違ったパスワードを入力した可能性があります。DWE のインストールを再度開始し、「パスワード」および「パスワードの確認」フィールドに、「インスタンス所有者」フィールドにリストされた ID に対応するパスワードを正しく入力してください。

ドメイン・サーバーの設定前に、インスタンスを所有する Windows サーバーに DB2 UDB Enterprise Server Edition をインストールできない。

Windows サーバーの場合、DB2 UDB Enterprise Server Edition のインストール前にアクティブ・ディレクトリーをセットアップおよび構成 (ドメイン・サーバーのシステム・セットアップ) する必要があります。これを実行しない場合は、マルチパーティション・オプションを選択できません。

DB2 UDB Enterprise Server Edition をパーティション化された追加のサーバー (インスタンスを所有するサーバーではなく) にインストールできない。

DB2 UDB Enterprise Server Edition は、使用するすべてのサーバーにインストールしてください。

Solaris および Linux でマルチパーティション化されたサーバーを作成後、DB2 UDB Enterprise Server Edition が始動しない。

DB2 UDB Enterprise Server Edition が Solaris および Linux 上で始動しない場合は、すべてのノードが同一サーバー上にあるかどうかにかかわらず、各ノードのサーバー名およびインスタンス名を組み込むため `.rhosts` ファイルを更新する必要があります。`.rhosts` ファイルには、同一サーバーおよびインスタンス名の複数エントリーを含めてください。

データベースの作成中、エラー・メッセージを表示せずに DB2 UDB Enterprise Server Edition がフリーズする。

他のオペレーティング・システムと異なり、システムにすでにデータベースが存在する場合、Windows にパーティションまたはノードを追加する際は、`db2nrcrt` コマンドを使用する必要があります。このコマンドは

Windows のみで使用できます。他のオペレーティング・システムの場合のように手動で db2nodes.cfg ファイルを更新しないでください。このファイルの更新が有効と見なされがちですが、データベースの作成は失敗します。

Oracle 表に接続中、DB2 UDB Enterprise Server Edition に障害が発生する。

Linux Red Hat 8、HP、および Solaris 上の Oracle 9i の Oracle 表にアクセスすると、DB2 UDB Enterprise Server Edition に障害が発生します。これは Oracle の障害によるものです。Oracle スクリプトを修正し、新しいライブラリー・ファイルをビルドしてください。新規ライブラリーのビルド方法については、フェデレーテッド・サーバーの資料を参照してください。

DB2 UDB Enterprise Server Edition Windows ソースの定義後、データウェアハウス・センターに障害が発生する。

「DWC07180E - エージェント処理から開始の応答を受信しているときに、ウェアハウス・サーバーに予期しないエラーが発生しました。RC=7180 RC2=9117」というメッセージが表示されることがあります。IWH2AGNT のソフト・リンクの作成が必要な場合があります。ソフト・リンクがないと、データウェアハウス・サーバーおよびエージェント・デーモンが始動しない可能性があります。

特記事項

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒106-0032
東京都港区六本木 3-2-31
IBM World Trade Asia Corporation
Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。 IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム(本プログラムを含む)との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Canada Limited

Office of the Lab Director
8200 Warden Avenue
Markham, Ontario
L6G 1C7
CANADA

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができませんが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生した創作物には、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。

© (お客様の会社名) (西暦年). このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プログラムから取られています。 © Copyright IBM Corp. _年を入れる_. All rights reserved.

商標

以下は、IBM Corporation の商標です。

ACF/VTAM	iSeries
AISPO	LAN Distance
AIX	MVS
AIXwindows	MVS/ESA
AnyNet	MVS/XA
APPN	Net.Data
AS/400	NetView
BookManager	OS/390
C Set++	OS/400
C/370	PowerPC
CICS	pSeries
Database 2	QBIC
DataHub	QMF
DataJoiner	RACF
DataPropagator	RISC System/6000
DataRefresher	RS/6000
DB2	S/370
DB2 Connect	SP
DB2 Extenders	SQL/400
DB2 OLAP Server	SQL/DS
DB2 Information Integrator	System/370
DB2 Query Patroller	System/390
DB2 Universal Database	SystemView
Distributed Relational Database Architecture	Tivoli
DRDA	VisualAge
eServer	VM/ESA
Extended Services	VSE/ESA
FFST	VTAM
First Failure Support Technology	WebExplorer
IBM	WebSphere
IMS	WIN-OS/2
IMS/ESA	z/OS
	zSeries

以下は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Pentium は、Intel Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

UNIX は、The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

索引

日本語, 数字, 英字, 特殊文字の順に配列されています。なお, 濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

[ア行]

アクセシビリティ 25
アンインストール 33
インストール
クイック・スタート i
順序 24
ショートカット・キー 25
前提条件 21
DB2 Alphablox 31
Office Connect 31
UNIX および Linux 28
Windows 26
ウェアハウス ETL エージェント
説明 7
ウェアハウス・トランスフォーマー
説明 7
エラー・メッセージ 35
DWE00010W 36
DWE00011E 36
DWE00012E 36
DWE00013E 36
DWE00014E 36
DWE00015E 36
DWE00016E 37
DWE00017W 37
DWE00018W 37
DWE00019W 37
DWE0002E 35
DWE0003E 35
DWE0004E 35
DWE0005E 35
DWE0006E 35
DWE0007E 35
DWE0008E 35
DWE0009E 35
オンライン情報 vi

[カ行]

キーボード 25
強調表示規則 v

[サ行]

自動実行 3, 26
ショートカット・キー 25
身体障害 25
製品コンポーネント、DWE 5
説明
ウェアハウス ETL エージェント 7
ウェアハウス・トランスフォーマー 7
リレーショナル・ラッパー 7
Cube Views 8
DB2 Alphablox 10
DB2 UDB 6
DB2 UDB Enterprise Server Edition 6
DB2 UDB Workgroup Server Unlimited Edition 6
DWE v, 5
Information Integrator 7
Intelligent Miner 9
Office Connect 11
Query Patroller 8
Warehouse Manager 7
ソフトウェア
要件の概要 1
DWE 製品コンポーネントの旧バージョン 21
ソフトウェア要件 13

[タ行]

データ・フローのシナリオ 17
トラブルシューティング 39

[ハ行]

ハードウェア
要件の概要 1
ハードウェア要件 13
フィックスバック vi

[ヤ行]

要件の概要
ハードウェアとソフトウェア 1
用語 vi

[ラ行]

ランチパッド 3, 26, 28, 33

リレーショナル・ラッパー
説明 7
ログ・ファイルのロケーション 37

B

Base Edition 5

C

Cube Views
説明 8
Web サイト vi

D

DB2 Alphablox
インストール 31
説明 10
Web サイト vi
DB2 UDB
説明 6
Web サイト vi
DB2 UDB Enterprise Server Edition
説明 6
DB2 UDB Workgroup Server Unlimited Edition
説明 6

E

Enterprise Edition 5

I

Information Integrator
説明 7
リレーショナル・ラッパー 7
Web サイト vi
Intelligent Miner
説明 9
Web サイト vi
Intelligent Miner Modeling 9
Intelligent Miner Scoring 9
Intelligent Miner Visualization 10
Intelligent Miner 製品ファミリー
説明 9
Intelligent Miner Modeling 9
Intelligent Miner Scoring 9
Intelligent Miner Visualization 10

L

Linux

インストール 28

O

Office Connect

インストール 31

説明 11

Web サイト vi

Q

Query Patroller

説明 8

Web サイト vi

S

Standard Edition 5

W

Warehouse Manager

説明 7

Web サイト vi

Web サイト

Cube Views vi

DB2 Alphablox vi

DB2 UDB vi

DWE vi

IBM ソフトウェア vi

Information Integrator vi

Intelligent Miner vi

Office Connect vi

Query Patroller vi

Warehouse Manager vi

Windows

インストール 26

IBM と連絡をとる

技術上の問題がある場合は、お客様サポートにご連絡ください。

製品情報

DB2 Universal Database 製品に関する情報は、
<http://www.ibm.com/software/data/db2/udb> から入手できます。

このサイトには、技術ライブラリー、資料の注文方法、製品のダウンロード、ニュースグループ、フィックスパック、ニュース、および Web リソースへのリンクに関する最新情報が掲載されています。

米国以外の国で IBM に連絡する方法については、IBM Worldwide ページ (www.ibm.com/planetwide) にアクセスしてください。



Printed in Japan

GC88-9700-02



日本アイ・ビー・エム株式会社
〒106-8711 東京都港区六本木3-2-12